

安全第一 親切施工

安全第親切施工をモットーに。
「あたりまえ」を貫く
不断の努力を信条として。



専門工事会社「豊建」の誕生

最も大きな刷新は一九八七年六月に工事部門を分離独立させ「株式会社豊建」を設立したことである。工事部門のウエイトが高まるにつれ、それぞれの仕事に就く社員の間で勤務体系が不均衡になってしまった。また、建材業界にあつては商社排除の風潮が強くなり、商社部門でスタートした日豊商事が大きな試練に立たされていたことも要因のひとつだった。そこで、豊建と日豊商事によるグループ経営を目指すことになったのである。同時にグループ全体で総売上二〇億円を目標に掲げた中・長期計画もスタートした。

結果、その戦略は功を奏した。セメントサイロの運搬・設置システムを開発し、特許を出願するなど意欲的な経営が目立つ。一九九二年には一〇五億円の売上を達成し、計画目標の二〇億円に迫るところまできた。

その中で、一九八七年には創業三〇周年を迎えた。事業が順調に推移できたのも故石田退三氏が存在があつたから。氏の遺訓となつた「自分の城は自分で守る」を企業発展の礎とし、ひたすら盤石な経営を目指した三〇年だった。三〇周年を記念して、八六年に本社ビルを増床したのに続き、八八年一〇月にはクラウン30ビルを新たに建設している。ビルの名称は、当時、最も関係の深かつたトヨタ自動車の代表車種「クラウン」に由来する。

信頼が未来を拓く

これだけの急成長が望めたのは、長年にわたつて築いてきたトヨタグループとの強い絆、信頼関係があつたからにほかならない。一九九二年に福岡営業所と苫小牧出張所を開設したのも、トヨタ自動車の九州や北海道進出に伴うもの。トヨタ自動車の主力工場の建設に多くかかわり、かたくななまでに「安全第一・親切施工」の企業姿勢を守り通してきた愚直さが評価されたといえる。工事の終了とともに苫小牧出張所は九三年に閉鎖するが、九州地区にあつては地元民間工事やデベロップメント開発にかかわることになり、これらの事業が一段落する九七年に福岡営業所は撤退している。

一九八七年から一九九二年の豊建の飛躍は特筆に値するが、その一方で、よりいっそう経営体質を強固にする体制づくりが図られた。全体の仕事量の七〇%を占めるトヨタグループとの関係を維持発展させつつも、他の得意先を増やす営業努力が求められた。

その甲斐があつて、この五年間に主要なものだけでも、長島温泉ホテル花水木、中京佐川急便名古屋港センター、ヤマザキマザック美濃加茂加工工場、東海理化恵那工場、フォルクスワーゲン豊橋などの工事を手がけている。これは、豊建にとって大きな前進となった。



グアム社員旅行

福岡をベースに奔走

株式会社豊建 取締役社長

山田 昭吉

トヨタ自動車様が愛知県外に大型新工場を進出させるという情報を得てから、今日は九州、明日は北海道と日本中を飛び回りました。めまぐるしい中で、多くのことを経験した時期でもあります。当初からの迅速な行動、素早い対応が、結果として順調な受注へつながつたと考えます。多くの苦労や試練の中、ご理解を賜りました関係先の皆様には改めて感謝申し上げます。



常務取締役時代



松坂屋南館



NISHIKI 758ビル



カバハウス



アイシンエイダブリュ 豊橋寮



佐川急便名古屋港センター



トヨタ名古屋整備専門学校



トヨタ田原事務館



デザイン博 白鳥会場

株式会社 豊建
豊建ビル クラウン30ビル